

研究課題「Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* における Panton-Valentine leukocidin 遺伝子の保有状況調査研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

近畿大学病院中央臨床検査部において2016年1月から2018年12月までの期間に新規に分離されたMethicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) 臨床分離株

2. 研究の目的・方法

研究の目的は、MRSA（和名：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）におけるPanton-Valentine leukocidin (*pvl*) 遺伝子の保有状況を調査することです。MRSAは、抗菌薬のメチシリンに耐性を獲得した*S. aureus*（和名：黄色ブドウ球菌）です。MRSAは健常人の皮膚や消化管に常在する微生物で、生活環境や病院環境にも広く常在します。通常、健常人に対しては病原性を示さない弱毒微生物の一つです。しかしながら、術後や免疫が低下した場合に感染症を発症する、いわゆる日和見感染症の原因菌として問題となっています。近年では、市中感染による皮膚・軟部組織感染症が報告されるようになりました。特に市中感染によるMRSA感染症は病原因子のPanton-Valentine leukocidinを産生することが知られています。本研究により、MRSAにおける*pvl* 遺伝子の保有状況が明らかになり、さらにその菌株の遺伝学的な調査により、*pvl* 遺伝子保有MRSAの遺伝学的な関係性を得ることができます。

この研究は、検査材料から分離したMRSAに対する検討であり、治療に関する介入はなく、新たな試料の採取はありません。また、個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。疾患の治療方針は、通常診療として主治医と患者さまの意思により決定されます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究で使用する試料は、MRSAの臨床分離株です。研究で収集するデータ項目は、MRSAが分離された患者さまの年齢、性別、検査材料、入院外来区分、臨床診断名、投与抗菌薬、および臨床経過です。収集した情報は、研究終了から5年後に廃棄致します。また、菌株については、中央臨床検査部内で鍵のかかる保管庫に保管し、研究終了後も他の疫学解析に利用するために保管します。

4. 外部への試料・情報の提供

この研究は、近畿大学病院のみで行われる研究であり、外部への試料・情報の提供はありません。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報の保護に支障がない範囲内で、研究計画書
及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは代理人の方にご
了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出下さ
い。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

照会先：戸田 宏文

近畿大学病院 中央臨床検査部

〒589-8511

大阪府大阪狭山市大野東 377-2

電話：072-266-0221（代表） PHS：5826